読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

玉野市で、海岸に漂流したごみを使って工作するワークショップが行われました。記事を読み質問に答えましょう。

漂流ごみからアート

「宇野のチヌ」柴田さん指導 市内でワークショップ

宇野港のシンボル「宇野のチヌ」「宇野コチヌ」を手掛けた「淀川テクニック」の柴田英昭さん(45)＝真庭市出身＝の指導で、漂流ごみを自由に工作するワークショップ「ゴミジナル工作ワークショップ」が20日、宇野の旧消防庁舎であった。県内外から親子連れら46人が参加。カラフルなオブジェやごみの形を生かした動物など33点もの作品を完成させた。

（矢吹喜一朗）

参加者は、事前に瀬戸内海の海岸で集めて洗浄された漂流ごみの中から「このごみはどの部位になるかな」「これは切ったら使えそうだ」などと選び取っては、接着剤で貼り付けたり、はさみで切ってからつなぎ合わせたり、思い思いに加工した。

「カメちゃん（カメレオン）」は緑のじょうろの先や植木鉢、おもちゃのボールなどの材料選びが絶妙。白いスプーンは長い舌に見立て、今まさに虫を捕まえているような完成度の高さが目を引く。

生き物もごみも捨てないでほしいというメッセージを込めた「すてない。。。」は、テニスボールや靴を組み合わせて猫の形にしており、ふわふわの質感が愛らしい。おもちゃのバットを胴体にカモメを作った「たまごを守るカモメ」は、ただの汚れが卵の模様のように見えてくる。

白いスプーンで長い舌を表現した「カメちゃん（カメレオン）」

テニスボールや靴で捨てられた猫を表現した「すてない。。。」

巣の卵まで作られている「たまごを守るカモメ」

動物や鳥生き生き 33点25日から展示

サッカーボールにプラスチックごみの破片などを貼り付けて「地球」という作品を作った岡山市立富山小5年大倉宗佑君(11)は「ごみで地球が汚染されているというのを聞いて作品を思いついた。ユーラシア大陸を表現するのが難しかった」と話していた。

ワークショップは、柴田さんが25日から同庁舎で開かれる展覧会「瀬戸内ゴミナ～レ!!」で制作総指揮を務めるのを機に開催。作品は現代アート作家5人の作品とともに公開される。

展覧会は3月15日まで。平日は正午～午後7時、土、日曜が午前10時～午後7時。入場無料。展覧会の問い合わせはメール（gominare@gmail.com）。

漂流ごみの中から作品に使うごみを選ぶ参加者ら

2月23日付山陽新聞、玉野圏版

Q1 「カメちゃん（カメレオン）」という作品には、どんなごみが使われていますか。第3段落や写真を参考に答えましょう。

Q2 第4段落に出てくる「すてない。。。」という作品には、どのようなメッセージが込められていますか。

Q3 漂流ごみを使ってアート作品を作ることについて、皆さんはどのように感じますか。皆さんの思いを自由に書きましょう。

過去の問題はこちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。